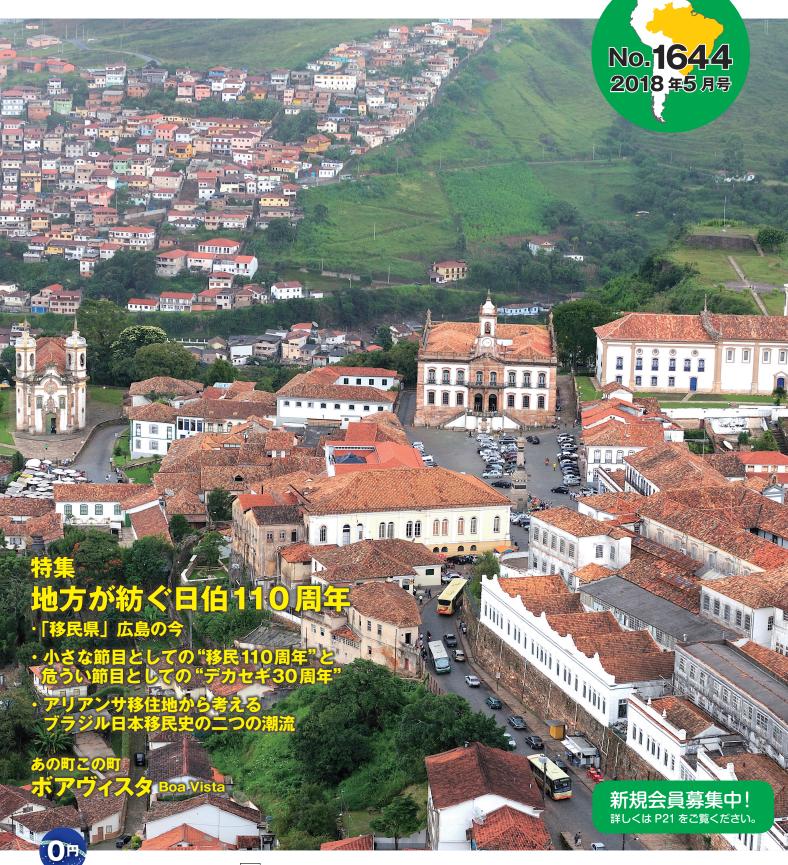
ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES





-般社団法人 日本ブラジル中央協会





世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

旅客鉄道事業に参画、400万人の市民の足を担う。 オデブレヒト・トランスポート社と共に、都市交通インフラを整え、都市の発展に貢献。

[Business innovation-2]

水力発電事業により、CO₂排出の少ないエネルギー開発を推進。 川の自然な流れを活かす流れ込み式水力発電事業を通じ、約1千万人分の電力を大都市圏へ供給。

[Business innovation-3]

ITを活用した教育事業で、次世代の人材育成に貢献。 オンライン教育事業のギーキー社に出資参画。一人ひとりの効果的な学びをサポート。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産



MITSUI & CO.

あの町この町 ボアヴィスタ [ジェファソン・ハラ] ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
ブラジル・ナウ 日本人ブラジル移住110周年と日本 [浅香幸枝]	5
【特集】地方が紡ぐ日伯110周年 「移民県」広島の今 _[堀江剛史]	·· 6
【特集】地方が紡ぐ日伯110周年 小さな節目としての "移民110周年"と 危うい節目としての "デカセギ30周年" 「アンジェロ・イシ」	8
【特集】地方が紡ぐ日伯110周年 アリアンサ移住地から考える ブラジル日本移民史の二つの潮流 [名材優子]	10
ブラジル現地報告 ブラジルのテレビ番組 [布施直佐]	12
連載・日系企業シリーズ第 52 回 NTT グループのブラジルでのチャレンジ [矢澤吉史]	13
連載・ビジネス法務の肝 ブラジル労働法改正、実務上の読み方(その1) [柏 健吾]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
連載・税務の勘どころ eSocial 及び EFD-REINF: 労務管理の近代化 [ヴァルテル・シミズ/翻訳:吉田幸司]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
ェッセイ 私の声楽勉強とブラジル [田中陽子] ·····	16
ゥーマン・アイ 点と点が繋がるブラジルでの時間 [鈴木由美] ····································	17
ジャーナリストの旅路 本当のブラジルを伝えているか [田村 剛]	17
連載・文化評論 今年のリオのカーニバル 政治プロテストもあれば世界史野外教室もあり [岸和田仁]	18
最近のブラジル政治経済事情 新刊書・新盤紹介 連載・びっくり豆知識「魁聖スタイルの大相撲はのんびり、ほどほど」・・・・・ 協会からのお知らせ	19 20 20 21

日 次



写真家田中克佳の 「表紙のひとこと」

「ボルトガル語で「黒い金」を意味するオウロブレット。17世紀後半から18世紀にかけ黄金の採掘で大繁栄を遂げた街。ミナス・ジェライス州の山間部に位置し、今なお壮麗な教会や屋敷が建ち並び、当時の繁栄を偲ばせる」(65年生まれ、早稲田大卒、博報学入社。93

(65 年生まれ、早稲田大卒、博報堂入社。93 年に退社後渡米し、独立。ニューヨーク在住。 www.katsutanaka.com)

ボアヴィスタ Boa Vista

ボアヴィスタ市はブラジル北部ロライマ州の州都であり、ブラジルの州都としては赤道の北側に位置する唯一の都市である。こうした地理的条件のため、気候は熱帯湿潤気候で年間平均気温は27.4℃となっており、21℃以下になることはない。IBGE(地理統計院)の最新統計によれば、人口は33万2千人である。

ボアヴィスタ地方の地勢は、"ラブラド"と呼称されるサバンナであり、これはブラジル、ガイアナ、ベネズエラの三国にまたがる広範な熱帯草原を形成してい



上)ロライマの大豆畑 (撮影: Fernando Teixeira 下) ブランコ河右岸の観光埠頭

がボアヴィス 夕地方の主要 水系となって

おり、季節としては、5月から9月までの雨期と、10月から4月までの水位がぐっと下がる乾期に二分される。この地域の土壌や気候条件は農業生産に適している。酸性度の低い中性土壌で、起伏の少ない平坦な土地のため農業の機械化が容易であり、日照量も十分にして降雨の時期が決まっているため、ブラジル国内の他地域の端境期に生産できるメリットがある。また、

農産物の品質も優れており、穀物の油性 分やたんぱく質の含有度が高く、また綿 花の繊維が長く、フルーツ類の糖度も高 い。

ベネズエラ、ガイアナ、カリブ諸国にマナウスも加えた人口3千5百万を有する一大経済圏の中心という戦略的な位置にあることも強調したい。すなわちブラジル国内の他の農業生産地方よりもアジアやヨーロッパに近いのだ。

当地方はブラジルにおける最後の農業 フロンティアであり、土地代もまだ安

いことから、国内他地域や他国から多くの農業生産者を惹きつけている。そのなかには新たな生産地を求めてブラジル南部から移住してきた日系人も少なくない。こうした日系人が、1950~60年代に入植した日本移住者と一緒になって2008年にANIR(ロライマ日伯協会)を創設したが、当地方在住の日本人・日系人の数は約120家族である。

ジェファソン・ハラ (ロライマ日伯協会)

グローバル人材の採用なら

日経HRは、日本経済新聞グループの人材情報企業として、新卒向け就職事業、社会人向け 転職事業、キャリア教育事業をメインに展開しています。

日経HR独自の情報に加え、日本経済新聞社や日経BP社のコンテンツをベースに就職活動、 学び、スキルアップ、キャリアデザイン、転職などのHR(Human Resources)情報を インターネットや出版、イベントなどのクロスメディア展開により発信していきます。

日経キャリアNET

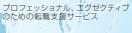
社会人のための転職サイト。日本経済新聞や日経・電子版、日経BP社の各種 専門媒体を入り口としたビジネスに意欲の高い求職者と、人材を企業戦略の 中核と意識する優良企業を結びつけます。



キャリアコンサルティング(人材紹介)

エグゼクティブ、金融、IT系人材を中心に、人と企業をピンポイントで結ぶ人材紹介事業を展開しています。日経キャリアNETや日経グループ各媒体との連動やアライアンス・エージェントとの連携など、さまざまなご提案も行っています。





20代、30代のための 転職支援サービス **日経HR** AGENT

日経アジアリクルーティングフォーラム

アジア9ヵ国のTOP大生を日本へ招待し、面接できるイベントを毎年8月に開催しています。2014年は北京大学、シンガポール国立大学、チュラロンコーン大学、インドネシア大学等、103名が来日し30名が内定獲得しました。





日経メディアで複合プロモーション

日経新聞・日経電子版、日経BP専門媒体(雑誌・Web・メルマガ・フォーラム)を活用した日経メディアの複合プロモーションで人材採用活動をお手伝いします。









仕事の先の幸せを創造する会社



お問い合わせ 株式会社日経HR TEL:03-6812-7307 e-mail:webeigyo@nikkeihr.co.jp https://www.nikkeihr.co.jp

日本人ブラジル移住110周年と日本

南北アメリカ日系社会との連携

筆者は、これまでパンアメリカン日系大会(1981 ~)と 海外日系人大会を研究し、各国の日系社会の代表者たちにインタビューしてきた。それは、日本と海外の国々とを結ぶ架け橋としての役割に注目してきたからだった。長年の研究成果は『地球時代の日本の多文化共生政策―南北アメリカ日系社会との連携を目指して―』(2013 年、明石書店)としてまとめることが出来た。ブラジル研究の専門家でもない筆者ではあるが、このような国境を越えて繋がっていく日系人の活動から、日本人ブラジル移住 110 周年を考えてみたい。

日本の国土の約23倍、人口は約2倍で、世界第9位の南米最大の経済規模の国、ブラジルには、最大の日系社会(約190万人)があり、在留邦人は約5万人居る。在日ブラジル人は約18万人おり、人の移動を通じて日本と大変繋がりの強い国である。ブラジリアにある日本大使館以外にもクリチバ、サンパウロ、マナウス、リオデジャネイロ、レシフェに日本総領事館がある。さらに、ベレンやポルトアレグレに領事事務所がある。日本の在外公館は米国に最も多くあり18であるが、それに次いで多い国はブラジルと中国で、それぞれ8である。いかにブラジルを外交上重要な国と考えているかが分かる。

日系社会に関する日本の政策は、海外移住審議会(1955 ~ 2000) の答申・意見に基づいて行われてきた。ここでは、 移住と開発がセットになっている。2017年3月に「中南米 日系社会との連携に関する有識者懇談会」(座長:堀坂浩太 郎上智大学名誉教授)が岸田外務大臣によって立ち上げられ、 筆者も委員として参加した。外務省は議論に先立ち、中南米 23 カ国の33 公館を対象に、中南米日系社会の調査を行った。 報告書は日本語・スペイン語・ポルトガル語で外務省のホー ムページで公開されている。同時に、合計4回の会合や、資 料や委員の発言も公開されている。この中でも日本人ブラジ ル移住 110 周年や「サンパウロ日本祭り」のような行事は 多くの国々で日本と日系社会、そして非日系の人々とを繋い でおり、二国関係において大変重要であると指摘された。昨 年開館したサンパウロのジャパンハウスは時代の先端をゆく 立派な施設で、同年リマで開催されたパンアメリカン日系大 会では各国の代表たちの羨望の的であった。

大学の講義から

筆者は「地域と文明 C (アメリカ)」という大学の講義の

中で、パンアメリカン日系大会を通じて見た南北アメリカ日系社会と日本との関係について話し、学生たちと意見交換している。日系人の活躍に学生たちはとても喜び誇りに思い興味を抱く。とりわけ毎年、海外日系人大会でブラジル県連の代表から頂く「日本祭り」の DVD の上映は、学生たちが自分たちの文化や将来を再考するきっかけになっている。全国 47 の都道府県の出展やその規模とともに、受け入れてくれるブラジル人の寛容さに感動するようである。各国から来ている留学生たちも日本と自分の国を繋いで活躍する日系人のようになりたいと抱負を語っている。同じく『笠戸丸移民100年の証言』の DVD も、学生たちが初めて知る歴史であり、大きな刺激となっている。

2015年9月に国連総会で、開発分野における国際社会の共通の目標として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、地球上のすべての多様な人々を包摂(Inclusion)する方針が定められた。15年にわたるこの目標を達成するために、各地で活躍する日系人と日本人とが連携し、多様な人々との連帯と包摂という仲間意識を持ち、生活レベルからお互いの良さを認識して繋がり、助け合うことが重要である。

日本人ブラジル移住110周年記念シンポジウム

筆者が所属する日本移民学会は、6月23日(土)24日(日)名古屋の南山大学で第28回年次大会を開催し、日本人ブラジル移住110周年を記念し、シンポジウムを計画している。サッカーを通じて住民たちがまとまっていく映画作品を上映し、どのように信頼関係を作りながら新たな文化を創造していくのかを話し合うことを目指している。また、持続可能な社会実現に向けて森林・資源経営の新しいモデル構築について、ブラジル日系人研究者と組み、世界の若手研究者を育てる山本浩之名古屋大学教授の講演もある。日本人ブラジル移住110周年が、若者を育成しつつ日本とブラジルと世界を繋ぐ契機になることを望む。日本で一番多い約5万人のブラジル人が住む愛知県で開催される意義は大きいと思う。

一人ひとりが、自分の出来ること、得意なことで、地域社会に貢献して、国境を越えて助け合っていくことは、世界の発展に役立つだけでなく、自分自身も満足して楽しい人生を送ることができることだろう。

浅香幸枝(南山大学准教授)

「移民県」広島の今



葉が廃れて使われなくなったという意味 合いで使うことが多いわけだが、死語に してはいけない言葉がある。広島におい ては「移民県」がその一つだと思う。こ の言葉でどれだけのことを語れるだろう か。移住当時の県・国内外の歴史的背景、 家族の出会いや別れ、異国で暮らす苦労、 そして古里へ寄せる郷愁―。 すべては広 島の歴史だ。そして移住先においては、 過去ではなく現在進行であることに心を 寄せる人はあまりに少ない。

ブラジルで邦字紙記者として、幾万回 と「移民」という言葉を使ってきたが、 帰郷してから、この言葉にピンとくる人 はあまりおらず、特に若い世代にかなり 違和感を与えていることは表情を見れば ありありと分かる。

地元紙「中国新聞」は創刊 100 年を 記念し、ハワイ、北米、中南米、アジア、 オセアニアと世界各地に移住した県人を 追った連載を行い、『移民』(同社刊)に

移 民 **| 博** 市 40 亚 食官 3 (1) ナジ IE

6

「中国新聞」2006年3月18日付け

「死語」という言葉がある。流行り言:セギブームのさなかだった92年。

「日本で働く日系人はいま約15万人。 彼らのうち相当数が、やがて日本に定住 することは間違いない。そのとき僕た ちは、彼らとどう接することになるの か。彼らの祖父、父は身をもって『国際 化』を実践した。そしていま、日本は 『国際化時代』だという。明治の開国か ら 120 年余、日本人の心はまだ『鎖国』 状態にある」とあとがきに記している。

今。少子化が進み、移民導入が議論さ れ、自分の企業で日系人、外国人実習生 を受け入れている経営者ですら、今の事 象だけ見て足元の移民の歴史を顧みてい ないことを痛感する。

そんなさなか、広辞苑の改訂版で盛り 込まれた広島県尾道市から愛媛県今治市 の間の島々を繋ぐ「しまなみ海道」に関 して、「周防大島を経由する」本当は大島) と誤っていたというニュースに触れた。

「イモ食い島」と言われた山口県・周 防大島はハワイ移民を多く輩出した島 まとめた。発行は入管法改正直後のデカ:で、高名な民俗学者宮本常一の出身地で あり、かの戦艦陸奥が謎の爆沈をした ことでも知られる。

> 昨年、ペルーとブラジルの資料室も 増設された同資料館の担当者に聞くと、 観光地で名高い広島・厳島神社と割と 近いこともあってか、近年では日系人 に人気の訪問先のようで、ツアーバス の駐車場も設置されている。

> 日系人が世代を超えてゆかりの地に 深い関心を寄せていることに反して、 天下の岩波書店のチェックをすり抜け てしまったことに象徴的なものを感じ

広島移民の概略

さて、「移民県」の歴史は 1868 年の 元年者といわれるハワイ移民に始まる。 本格化した85~94年までの「官約移 民」で渡航した2万9千人のうち実に広 島と山口で2万強を占める。ハワイの日 本語が広島弁といわれるゆえんである。 前述の周防大島からの移民は、山口県の 4割を占めていた。98年のハワイがア メリカに併合されると、ハワイからも転 住、本国へ移住する移民も急増した。

翌99年のペルーへの第一回移民船「佐 倉丸」790人の乗船者のうち約2割を占 める 176 人 (22%) が広島県人だった。

そしてご存じブラジルには、1908年 の第一回移民船「笠戸丸」で移住した9 家族 42 人、1929 年のアマゾン第1回 移民にも広島県人がいた。この歴史は、 パラー州トメアスーでご健在の山田元さ ん一家をモデルにした『アマゾンの歌』 (角田房子著) に詳しい。ブラジルには 戦前・戦後を通じて約1万4千人が広 島から移住した。県別でいうと5位だ。 戦後移住は 1952 年のブラジルへの移 住をきっかけに再開され、アルゼンチ ン、ボリビアにも広がった。特筆すべき は56年に沼隈町(福山市)が、パラグ アイへ集団移住を行った「町ぐるみ移住」 が全国的にも珍しい。北中南米には現在、 28 の県人会が存在する。

広島からは全国一の実に約11万人が 海外に雄飛した。沖縄、熊本、山口、福 岡と続く。現在、広島にゆかりを持つ県 系日系人は、どれほどになるだろうか。

凍結された博物館構想

こうした背景を受けて、かつて広島市 では博物館構想があった。80年の政令 指定都市の移行を機に掲げられた。市は 職員を北南米、ハワイに派遣し、442 人(団体含む)から約4千点の資料を集 めた。老移民たちは、古里から来た市の 職員らから構想を聞き、「私たちの苦労 は忘れ去られることはないのだ」と、感 激しながら携えてきた旅券や民具などを

進んで提供したことは想像に難くない。 しかし、その思いが報われることはな かった。

建設予定地だった場所にある放射線影 響研究所 (ABCC) の移転が進まず、市 の財政難もあって 98 年に建設計画は凍 結。部分公開での資料の出し入れ、管轄 課の移行もあり、整理・管理体系があい まいになった。その後、国際協力機構 (JICA) の協力で 2006 年に「広島市デ ジタル移民博物館」がネット上に公開さ れた。しかし、これがひどい代物だった。

移民の数や提供者の名前の間違い、サ ンパウロとアマゾンの取り違え一。担当 者の無知と無関心が生んだミスだらけの 説明文のずさんさには怒りを覚えるほど だった。

中国新聞は「間違いだけが問題なので はない。いわば身一つで渡り、異文化の 世界を生き抜いた先人への思い、足跡を 記録する意思が欠落している」「広島市 の信義と歴史感が問われている」と紙面 で批判、市は謝罪しサイトをわずか40 日で閉鎖した。

現在、この構想が再浮上している。当 時のコンセプトとは違うのだが、移民を 紹介するコーナーも設けられると聞く。 建設予定地は広島市街を見下ろす山の上 にあり、外海と繋ぐ瀬戸内海を望むこと もできる素晴らしい場所である。移民の 魂安からんことと3度目の正直を願う ばかりだ。

さて、このデジタル博物館、現在は再公 開されている (http://dms-hiroshima. eg.jomm.jp/)。このサイトが古里を思 いながら、異国で果てた移民らの思いを 今に繋ぐものになっているかどうかは読 者のみなさんの判断に委ねたい。

身近な移民

自身を振り返ってみれば、祖父の兄弟 は、米国ロサンゼルス、ブラジルに渡って いる。ハワイにも親戚がいる。祖父から ブラジルに行った兄弟について聞いたこ とはなかったが、家族の移住をめぐる思 い出は記憶の奥底にあった。それが突如、 眼前に現れたのだから驚いた。そのいき さつをニッケイ新聞のコラムに書いた。

― 「遠くの親戚より近くの他人」とい うことわざを戦後の単身移住者はより深 く感じてきたのではないか。「ブラジル においては天涯孤独」と中途半端に虚勢 を張ってきたコラム子も他人を頼るでは ないが、人の情は十分に感じてきた。た だ、母方の祖父の兄弟(大叔父にあたる) が移民したというのだが、遠い戦前の話 ―と頭の片隅に追いやっていた▼先日、 米国ロスからハトコにあたる親戚がサン パウロに所用で訪れ、会うことに。両親 の遺品を整理したさい、出てきた葉書の 日本の住所でコラム子の家族と連絡がつ き、今回の初対面と相成ったわけだ。ブ ラジルで米国日系三世のハトコと英語で 話しているのもなかなかに面白い体験 だった▼"ブラジルの親戚"も話題になっ た。「帰国時、空港で航空会社の職員に 『あなたと同じ苗字の友達がいる』と言 われたので、その友達に伝えて欲しい-と名刺を置いてきた」とメールが入った。 家系図を作りたいという彼に感化され、 今までの不精を反省し、ネットサービス で電話番号を検索してみた▼珍しい苗字 なので、そんなに数は多くなかった。聖 市近郊のモジにいくつかあった。気まぐ れにそのうちの一軒に電話、応対した女 性に事情を話したところ、彼女の祖父の 郷里はコラム子と同じ。もしかして一と 話をたぐると、「私たち…ハトコね」と 笑い声が受話器から漏れた▼モジといえ ば、戦前移民が多く、サンパウロの食糧 供給に日本移民が大きな役目を果たした ところ。その歴史は知っていたが、その 貢献のなかに同族がいたとは何とも誇ら しい。大叔父の墓参も兼ね、家族の歴史 を取材したいところだ。(2010年10 月28日付け『樹海』)

は9人の子供がおり、ひ孫世代を入れる となんと 200 人近い親戚がいることが 分かった。どう考えてもルーツである広 島の親戚の数をはるかに超える。それも 二世らはコロニアでいう「雑婚」で、次 の世代となるとすでに日系人であること すら分からない。クリスマスや誕生日に 呼んでくれたりする付き合いが始まり、 そんな子供たちに Tio (おじさん) と呼 ばれ、まとわりつかれるに至っては、私 とブラジルの関係は「血縁」となったと 小躍りするほど感激したものだ。帰国し た今でも数人とはフェイスブックなどで 近況などを報告し合ったりもしている。

私にとってブラジルは、かつて住んで いた国ということに加えて、血の繋がっ : たファミリーがいる国という認識であ り、ブラジル移民の歴史は「わがこと」 でもある。

この話をすると珍しがられるのだが、 ブラジルに限らず、約11万人が移住し た広島にはそうした人が多くいるわけ で、探そうと思えば出会うこともできる だろうし(もろ手を挙げて喜んでくれ るだろう)、ほんのわずかの想像力があ れば、自分と世界が繋がるファミリーツ リーが見えてくるはずなのである。

広島市の学校では、「被爆地で生まれ た私たちには平和を伝える使命がある| と教えたりもするのだが、それに倣って、 移民についてもそうした意識を持つこと が「移民県」に生まれた使命なのでは-といえば、また違和感を与えてしまうの は間違いない。

さしずめ私にできることは、機会があ れば、わずかばかりの移民や日系社会の 知見を語ること、そして今や立派な広島 弁の使い手となったブラジル生まれの娘 に、幼少期を育んでくれた日系コロニア の歴史をしっかりと伝えることでしか 後日談だが、墓参も果たした大叔父に「死語」に抗うことができないのだが。



小さな節目としての"移民110周年"と 危うい節目としての"デカセギ30周年"



アンジェロ・イシ (武蔵大学教授)

あれから10年~

あなたはどの「あれ」に思いを馳 せるのか

もう 10 年も経ったのか…時が過ぎるのは 早いものである。ただここで気になるのは、 あなたが「何」から10年経ったと思いをめ ぐらせているのか、という問題だ。ブラジル 在住の日系人ならば、自ずと2008年の日本 ブラジル移民 100 周年記念の一連の盛り上が りを懐かしがっているだろう。しかし、私の ように日本に在住する日系ブラジル人にとっ ては、「10年前には何が起こったか」と聞か れれば、反射的にまったく異なる思い出を掘 り起こすことになる。それは他でもない、同 年に勃発したリーマンショックと雇用危機、 そしてその結果として起きたいわゆる「日系 人労働者」の派遣切りという悪夢である。在 日ブラジル人にとって 2018 年は祝いたくも なければ思い出したくもない「雇用危機 10 周年」なのである。

やはり「2008」という同じ年の上半期と 下半期に起きた上記の二つの歴史的な出来事 はまさにコインの表と裏、光と影の関係にあ り、同時に我々の記憶に刻まれる必要がある ように思えてならない。

「小さな節目」は本音ベースの 自己点検に最適

まず、どの移民集団にも共通する話ではあ るが、とりわけブラジルの日系移民にとって は「百周年」と「110周年」はその意味が本質 的に異なることを確認しておく必要がある。

百周年は移民を受け入れた「マジョリティ 社会」から盛大に祝福してもらった周年祭で あった。ブラジルのマスメディア報道(最大 手のテレビ局や新聞・雑誌などが特番や特集 を連発)、国内最大の祭事であるカーニバル (一流のサンバチームが日系移民へのオマー ジュをテーマとしたパレードを実施)、行政: あると考え、私は在東京ブラジル総領事から: 1980年代以降の日本とブラジルをめぐる

府主導の企画事業等(例えばサンパウロ州政 : 府による学習プログラム Viva Japão) にお いて、極めて派手な、可視的かつ好意的な形 で「日系移民」とその「百周年」に関する表 象や言及がなされた。私がブラジルでインタ ビューした百周年協会の関係者は例外なく、 「ブラジル社会(とりわけマスメディア)が これほどまでに百周年を祝福してくれるとは 予想しなかった」と口を揃え、その祝福ムー ドに対して「驚いた」、「感動した」などの言: 葉を並べた。

対して 2018年の 110 周年はより 「内輪」 の祝い事としての要素が強い。決して否定的 な意味合いでこのように表しているのではな く、今回は「小さな節目」であるがゆえにブ ラジル社会の関心が低かったりマスメディア での報道が少なかったりするのは想定の範囲 内であり、文字どおりの意味で「内輪」のイ ベントになることを強調したいだけだ。110 周年はいろいろな気遣いが必然だった百周年 よりも、「世間の目」を気にしたり変に見栄 を張ったりすることなく、日系社会の関係者 が自由のびのびとコミュニティの強みと弱み を精査し、本当の実力を自己点検し、正確な 立ち位置を確かめる絶好の機会である。さら には「日系人」の個人レベル及び集団レベル のアイデンティティ、そして日系社会の今後 について本音ベースで議論を交わす機会でも あるはずだが、どのくらいの人がこれに気づ いてくれているだろうか。

他方、別の比喩が許されるならば、110周 年祭は「忘年会」的な要素も含み得る。「十 年ひと昔」という諺があるように、ブラジル の日系人が「百周年」のお祭り騒ぎを「忘れ」 て完全なる未来志向にギアチェンジする機会 であり、日本在住の日系人にとっては派遣切 りショックの悪夢を「忘れ」て、より前向き に集団レベルの意識改革や方針転換を図る機 会である(後に述べるブラジル人の「デカセ ギ時代の終焉宣言」はまさにそういう意義が

指名を受けてその草稿を執筆した次第であ る)。ただ忘れる前には今一度、10年前の教 訓を整理して「総括」しておく必要もあろう。 それが2018年現在の立ち位置をより精密に 確認する材料にもなり得る。

ここでいう総括とは、実現しなかったプロ ジェクトが「なぜ実現しなかったのか」とい う検証も含んでいる。たとえば、今となれば、 「いったいあの騒ぎは何だったのか」と苦笑 いしたくなるのが幻の「日伯総合センター建 設計画」である。それは広大な敷地に巨大な ツインタワーを建設し、劇場、ホテル、ショッ ピングセンター、博物館、さらに分譲マンショ ンなどが含まれた複合施設という壮大な理想 郷であった。百周年事業の最大の目玉企画と して打ち出され、「スーパーセンター」とい う愛称まで付けられたにもかかわらず、その 是非が厳しく問われて迷走し、不発に終わっ た。良くも悪くも昨年、アクセス抜群で垢抜 けた高級地であるサンパウロ市のパウリスタ 大通りに日本政府がジャパン・ハウスを新設 したことで、移民社会主導の総合施設という 構想はますます忘れ去られつつある。総合セ ンターは日系三世や四世が憧れる(足を運び たがる)「聖地」となり、百周年記念の「レ ガシー」となることが期待されていたが、ジャ パン・ハウスがその役割を担いつつある。も ちろん「文協」(日本ブラジル文化協会) に は大きな意義があり、若い世代に大人気で移 民組織(県連)主導のFestival do Japão(ジャ パン・フェスティバル) もある。しかし百周 年で「総合センター」が実現し得なかったこ とが移民社会にいかなる影響を及ぼすのか否 か、ジャパン・ハウスは文協のライバルなの かパートナーなのか、110周年を機に議論で きる題材は決して少なくない。

雇用危機から10年の 「デカセギ30周年」

人の国際移動について幾つかの点を概略した : くの人が渡り始めた現代の移民については、 い。80年代後半にはブラジル在住の日系一 世による日本へのいわゆるUターン現象が 始まり、1988年の日本ブラジル移民80年 祭のお祝いムードの裏面で、二世や三世もブ ラジルを去って「デカセギ」が加速化した。 1990年には出入国管理及び難民認定法が改 定され、デカセギはブームとなった。

在日ブラジル人の数は2000年代まで右肩 上がりで、ピーク時には30万人を超えてい た。そのピークがまさしく移民百周年記念祭 と重なる 2008 年の上半期であった。

在日の日系ブラジル人がいかなる形で移民 百周年記念事業に関与できたかというふうに 問いを立てれば、移民百周年協会が在日ブラ ジル人との連係を重視したとは言いがたい。 百周年記念の事業を公募する際、日本のブラ ジル系のエスニック・メディアでの告知も徹 底されなかった。また2008年6月のサンボ ドロモでの記念式典においても、百周年協会 の上原会長は開会のあいさつにおいて、日本 に渡ったブラジル人については一言も触れな かった。さらに、式典で配布された『日本移 民百周年記念行事 概要案内」) では、「今年 2008年、苦難の道を乗り越えて、今日の発展、 繁栄を築いてきた今、(…)更なる繁栄へと進 みます」と記されているが、日本にデカセギ に行った人々の存在は、ブラジルの日系社会 の繁栄を主張する上では「不都合な真実」で あったに違いない。

そういう在日ブラジル人の NPO は独自の 百周年記念行事を実施した。中でも横浜の ABC ジャパンの活動は、「移民 100 周年、デ カセギ 20 周年」を提起し、「移民百周年」と 在日ブラジル人を結びつけようとした点にお いて興味深い。同団体は1988年を戦略的に 「デカセギ元年」と称し、「100 プラス 20 の会」 という運動を展開した。移民百周年記念に便 乗して、同時に「デカセギ移民の20周年も 祝いましょう」という趣旨である。在日ブラ ジル人の存在を認知してもらいたいという明 確な意図が垣間みられる。同団体は『2008 年~ブラジル日本移民100周年、日本ブラジ ル定住化20周年』や、在日ブラジル人の活 躍を記録した『ヒーローズ』などの DVD 映 像作品をも制作した。

2008年をデカセギ20周年と称し、1988 年をデカセギ元年と設定できる明確な根拠は ない。80年代以降にブラジルから日本に多

何年の何月何日を「移民零年」として設定す ればいいのかについて、明確なコンセンサス を得るのは困難である。なぜならば、かつて 日本からブラジルに移住した人々に比べ、移 民の条件が大きく変化したからである。現代 の移民については政府間で「移民協定」が結 ばれたわけではない。かれらは飛行機で来日 したが、最初の「移民機」あるいは「移民便」 と名付けられるようなフライトなど存在しな い。また、「デカセギ」の先発組が来日した のは80年代後半だと言われているが、それ 以前に貯蓄目的で来日した者もいるだろう。 それでもデカセギ 20 周年という表現が、こ の団体のみならず、各界の在日ブラジル人や メディアによっても使用されていることは事

このように、在日ブラジル人にとっては「百 周年」は遠いブラジルでのお祭り騒ぎであっ たが、日本社会に対して様々なメッセージを 発信する好機としても活用された。このデカ セギ経験者の百周年記念との多様な向き合い 方については、静岡県浜松市で画期的な祝祭 を手がけたマスコ氏について私が書いた伝記 (『ひとびとの精神史』第7巻、岩波書店)、 および、ブラジルに在住しながらも百周年祭 に対して疎外感を抱いた日系人作家サム氏に 関する論考(『日系文化を編み直す』ミネル ヴァ書房)をぜひお読みいただきたい。

さて、ここで私が注目したいのは、100プラ ス20に見習って、在日ブラジル人が2018年 に [110プラス30] を祝うかどうかである。こ れについては、百周年記念祭について書いた 論文でも言及したので、その部分を引用する

「日本移民学会のシンポジウムでも述 べたとおり、筆者の関心事の一つは、 在日ブラジル人が果たして何年に、日 本移住の周年祭を祝うかということで ある。現時点での在日ブラジル人一世 のリーダー層の思惑が尊重されるなら ば、在日ブラジル人の百周年は80年 後の 2088 年になるであろう。より近 い将来で言えば、「デカセギ30周年」 がどのように祝われるかという点に興 味をそそられる。しかし、かれらが 「いつ」周年を祝うかを予想する以前 に、果たしてかれらが周年を祝おうと するのだろうかという問いを立てる必 要がある。「ブラジル移民 110 周年問

題しと切り離せないことも肝に銘じつ つ…」(『移民研究年報』15号、日本 移民学会発行)

では、2018年には「デカセギ30周年」は 祝われようとしているのか。答えはノーであ る。むしろ、2016年には在東京ブラジル領 事館の市民代表者評議会が Declaração de Yokohama(横浜宣言)を公表し、それはデ カヤギ時代の終焉を主張するものであった。 移民 110 周年についても、在名古屋のブラ ジル総領事館が様々な関連コンクール(ロゴ マーク、絵、作文、弁論大会)を主催してい るが、草の根レベルでの動きはない。6月に 在日ブラジル人が楽しみにしている祝祭とい えば、ロシアのサッカーワールドカップであ る、というのは皮肉でも冗談でもない。

そして四世ビザ問題は続く?

最後に、ブラジル在住と日本在住の日系人 の双方に関係する二つのビザ問題について一 言触れたい。冒頭で述べたとおり、ブラジル で百周年が祝われた年に在日日系人が直面し たのは大量解雇であり、そこで流行語になっ たのは日本政府が30万円の旅費援助を出す のと引き換えに「再入国」を制限するという 「帰国支援事業」だ。帰国支援事業については、 条件付きの再入国解禁によっていちおうの決 着はついたといえよう。

他方、2017年から今年にかけて両国の日 系社会で流行語になったのが「日系4世ビザ」 である。2018年3月末に政府が(厳しい条 件を課して)4世へのビザ付与を公表したの も、まるで110周年記念に間に合わせようと したかのようなタイミングである。

かつて帰国支援事業が「日本からブラジル △」の人口の大移動を促したとすれば、帰国 者への条件付きでの再入国解禁と最近の日系 4世ビザ付与は細やかな「ブラジルから日本 へ の人口の小移動をもたらすと予想できる。 そしてワーキングホリデー制度を踏襲して設 計された4世ビザを良しとするのか、それと も条件緩和や運用法の改善に向けて引き続き 動くのか、つまり 2018 年は「四世ビザ」と いうノヴェーラ (連ドラ) の最終章なのか続 編の序章なのかを見極めることこそが、ブラ ジルおよび日本の日系人たちが 110 周年を機 に直視すべき難題なのかもしれない。

アリアンサ移住地から考える ブラジル日本移民史の二つの潮流



名村優子 (立教大学文学研究科博士後期課程)

るのかしら。私の町にも日系人はたくさんい るのに。」

アリアンサ移住地について研究している大 学院生だと自己紹介した時、初対面の日系女 性からこう言われたことがある。

彼女の疑問はもっともだ。アリアンサ移住 地については、節目の年に周年史が出版され ているだけでなく、日本で書かれた本がポル トガル語に翻訳されている。日本からアリア ンサを訪ねる人も少なくない。どうして日本 の人はサンパウロ州奥地の田舎町であるアリ アンサばかり注目するの?他の町の日系人は 見えていないの?と、この女性が思っても不 思議はない。

しかし私は、アリアンサにはブラジル日本 移民と日本との関係を考える上での大きな手 がかりが隠れていると思っている。冒頭の問 いへの答えになるかわからないが、その理由 をこれまで出版されたブラジル日本移民史文 献を参照しながら述べてみたい。

アリアンサ移住地の特徴

アリアンサ移住地は、長野県知事を会長と する民間団体「信濃海外協会」が 1924 年に サンパウロ州北西部に開設した計画入植地で ある (図参照)。信濃海外協会による入植地 分譲が完了した後、鳥取県海外協会、富山県 海外移民協会が事業に加わり、第二アリアン サ、第三アリアンサと移住地が拡大した。日 本各地および米国の日本人が主に自作農とし て移住し、原則として1家族あたり10アル ケール (24.2 ヘクタール) が 1750 円ほどで 分譲された。1930年の小学校教員の初任給:

図 サンパウロ州アリアンサ移住地

「どうしてアリアンサばかりが注目を浴び! が45円程度だから、土地代に加え営農資金! ブラジル日本移民史における などを準備できたのは、ある程度の資産を持 つ人々であった。渡航前の職業は多彩で、高 等教育を受けた技術者や官僚、教師なども少 なくなかった。

> また、事業を主導した信濃海外協会幹事の 永田稠が、キリスト教に基づく移植民送出団 体「日本力行会」の会長であったことから、 アリアンサ移住地には力行会員を中心にプロ テスタントの信者が多かった。このような入 植者の特徴を捉えて、香山六郎などがアリア ンサ入植者を「銀ブラ移民」と呼んだ逸話は 有名である。

> このような入植者の特徴だけでなく、移住 地建設自体にも特筆すべき点があった。アリ アンサ移住地は、日本人が安心して定住でき る理想的入植地を目指して、日本からの資本 投下によって建設された。土地購入費を含め た初期建設資金は、長野県を中心に 179 名 から75円~5万円の出資金を集めて賄われ た。県単位での小口出資方式による移住地建 設の成功は、1927年の海外移住組合法の制 定とその後のブラ拓移住地建設のきっかけと もなった。

> しかし、アリアンサのように日本からの資 本投下によって作られた計画入植地は、戦前 のブラジルではごく少数である。このような 計画入植地として他にイグアッペ、バストス、 チエテ、トレスバラスやアマゾンのアカラな どが挙げられるが (表参照)、斉藤広志によ ると、これら入植地への日本直来の入植者数 は戦前期の日本人渡伯者総数の4%程度に過 ぎなかった。

> 戦前に渡伯した日本移民の大半は、コー ヒー農場の契約労働者として渡航し、コロノ

サンパウロ州

アリアンサ移住地

生活を経てから借地 農や分益小作農、自 作農といった段階の 中で集住していった。 つまり、アリアンサ は、コロノを終えた 日本移民が集住する 多数の入植地からみ

れば、特殊な入植地: であったのだ。

計画入植地

このような少数かつ特殊な計画入植地は、 ブラジルで編纂された日本移民の周年史にお いてあまり重要視されてこなかった。

香山六郎編著『移民四十年史』は、イグアッ ペやアリアンサを「所謂軍部、官僚、資本家 の後援する植民地」であり、コロノを経験し た後に集住した「野武士共や股旅者」とは別 物として捉えている。また同書で安藤潔は、 前述の永田稠を「国威の海外発展」による海 外移住を志向した「帝国主義思想の代表」で あると非難している。

同書は1949年の発行であり、戦後の「勝 ち負け」問題で認識派に属していた安藤は、 「勝ち組」の国粋主義にもとづくテロリズム を目の当たりにして、国家に繋がる要素を厳 しく批判する必要があったのだろう。本当に 永田が「帝国主義思想の代表」であったかど うかは慎重に検討する必要があるが、安藤の ように、大多数の「コロノ上り」の日本移民 を移民史の主役と捉える者からすれば、永田 は国家の利益や意向を体現して移民に関わっ た人物と見えたかもしれない。

『移民四十年史』以降に編纂された『ブラ ジル日本移民70年史』『ブラジル日本移民 八十年史」『ブラジル日本移民百年史』でも、 基本的にコロノから借地農、自営農に変わっ ていく移民の姿が中心に据えられており、計 画入植地は附属的な扱いになっている。では、 ブラジル日本移民史において、アリアンサの ような計画入植地や、その入植者は注目され てこなかったのだろうか。

時代がさかのぼるが、紀元 2600 年を記念 して日本で刊行された『ブラジルに於ける日 本人発展史(上・下)』は、日本からの資本 投下や計画入植地を重点的に取り上げてい る。同書の上巻は1941年に発行され、下巻 も 1942 年に発行されるはずであったが、日 米開戦によりブラジルへ送付できないまま日 本で「消失」し、1953年に再度発行された。 刊行委員には委員長の青柳郁太郎・多羅間鉄 輔をはじめブラジル日本移民社会の官僚経験 者、企業責任者、移植民事業関係者、移植民 あたったのは野田良治と輪湖俊午郎であっ た。本書は日米開戦直前におけるブラジル日 本移民指導者層の総体的な移民観が反映され ていると考えられるが、そこでは日本からブ ラジルへの投資事業や入植地開設事業がかな りの分量で扱われている。例えば下巻では 約350ページの内、冒頭の150ページ程に わたってイグアッペやアリアンサ、アマゾン といった計画入植地の開設過程が描かれてい る。

つまり、日米開戦直前においては、海外発 展が日本の国威発揚と結びつけて考えられ、 日本からの投資がなされた事業や機関がブラ ジル日本移民史の重要なトピックとして詳述 されていたのである。

さらに近年は、これまでの周年史などの視 点を再検討し、日本の資本投下や入植地建設 を重視する著作が出てきている。

外山脩著『百年の水流』は、通底するテー マとして「一九九〇年代の同時期に落城した コチア、スール、南銀が、一九二〇年代の同 時期に生まれている符号への疑問!を掲げ、 その答えを 1920 年代 - 1930 年代前半に起 きた「新しい動き」に求めている。

外山はこの「新しい動き」として、日本政 府による移民への渡航費全額補助、海外移住

研究者などが名を連ねており、実際に執筆に: によるアリアンサ移住地建設や海外移住組合 設立、実業家による植民地建設開始などを挙 げている。その上で、これら移民奨励や資本 : 投下に関わる一連の動きが起きた背景には : 「日本の国策」があると指摘している。この 指摘は当を得ているように思えるが、同書で : は残念ながら「日本の国策」の内容について

「国策 | とアリアンサ研究の意義

外山の指摘どおり、1920年代以降の移民 奨励や資本投下に関わる動きと「日本の国策」 が関連しているとして、何を「国策」と捉え るのだろうか。また「国策」は「国益」に基 づいて立案されると考えられるが、いわば「勢 いて、日本の「国益」とはどのようなものな のだろうか。

この大きな問いに対してすぐさま答えを出 せるわけではない。しかし入植地建設の意図、 : 性といった一つ一つの実態を明らかにするこ とによって、入植地および入植者にとって「国 策」とは何であり、どのような意味を持った のかを検討することができよう。

組合連合会設立や日本人農業者支援、道府県: 信濃海外協会や日本力行会作成の移住地関連: ている。



資料が数多く日本に残っているアリアンサ移 住地でこそ可能であると考えている。

これまでの周年史が、コロノ出身者の経験 をブラジル日本移民史の中心に据えたのは、 渡航者の割合から考えても当然のことであ る。一方で、日本の政財界が深く関わった計 画入植地を注視し分析することは、必ずしも 「国策」への追従を意味しない。むしろ、移 カ圏外の移植民送出先」であるブラジルにお : 民の個人的状況や意思の背景にある制度や構 造を明らかにしてこそ、移住者の主体性や意 識が浮かび上がるのではないだろうか。

これは香山や安藤が重視した、大多数の移 民にとっても無関係ではない。自分たちがど 資本投下の方法、国からの支援、入植者の属: のような「国策」の枠組みによって渡伯した のか、自分たちの経験が国家とどう関連づい ているのか。国家や社会経済といった制度的 : 枠組みや構造の影響が可視化されてこそ、移 民した当事者固有の経験を深く理解すること これは上記「新しい動き」の先駆例であり、ができると考え、アリアンサ移住地を見続け

11

表 日本からの投資により建設された計画入植地

入植地の名称と属性		入植・ 操業年 1)	経営管理団体	所在地	面積 (ha) 2)	
公的機関出資	アリアンサ移住地	第一	1924	信濃海外協会 →ブラジル拓殖組合		5,500
		第二	1927	信濃海外協会、鳥取県海外協会 →ブラジル拓殖組合		3) 6,340
		第三	1927	7 熊本県海外協会→ブラジル拓殖組合 SP 州ノロ	- SP 州ノロエステ線ルッサンビラ駅	3) 8,250
		ヴィラ・ノヴァ	1927			3,155
		ノヴァ・アリアンサ	1932			3) 2,500
		フォルモーザ	1934		1	3) 4,605
		オリエンテ	1936			3) 2,567
	バストス移住地		1929	ブラジル拓殖組合	SP 州ソロカバナ線ランシャリア駅	32,330
	チエテ移住地		1929		SP 州ノロエステ線奥	118,825
	トレスバラス移住地		1932		PR 州ソロカバナ分岐線ジャイタ駅	46,350
民間出資	イグアッペ 植民地	桂	1913	ブラジル拓殖株式会社	SP 州ジュキア線イグアッペ郡	
		レジストロ	1914	→海外興業株式会社		75,853
		セッテバラス	1920	海外興業株式会社		
	サンタ・ローザ植民地		1936	<i>海</i> 外央未休式云位	RS 州ウルグアイ川流域	_
	ピリアニット		1938	南米企業組合	PR 州ピリアニット	4) 25,000
	アカラ植民地		1929	- 南米拓殖株式会社	PA 州アカラ	5) 600,000
	モンテアレグレ植民地		1929		PA 州モンテアレグレ市奥	5) 400,000
	マウエス		1928	アマゾン興業株式会社	AM 州マウエス郡マウエス町南方	5) 25,000
	アマゾニア産業研究所 1		1930	アマゾニア産業研究所	AM 州パリンチンス市対岸 ヴィラ・アマゾニア	5) 1,000,000

SP: サンパウロ州、PR: パラナ州、RS: リオグランジドスル州、PA: パラ州、AM: アマゾナス州、→: 経営管理団体の変更、一: 不明

- SP: サフハソロm、PP: ハファm、R3: リオソフノントスルm、PP: ハフm、AM: アマンアスm、→: 在名管理性回体の変更、一: 不明1 最初の入機者があった年や開拓着手年を表記 2) 注記のないものは伯剌西爾時報と編集部 1933 「伯剌西爾年鑑」伯剌西爾年鑑上、ブラジルに於ける日本人発展史刊行委員会 1941. 『ブラジルに於ける日本人発展史上巻』日本図書センター ブラジルに於ける日本人発展史刊行委員会 1942 『ブラジルに於ける日本人発展史 下巻』日本図書センターによる。すべての面積は1アルケール=2.5haで概算 3) アリアンサ移住地八十年史編纂委員会編 2012 『アリアンサ移住地「創設八十年』」アリアンサ日伯文化体育協会による。 4) サンパウロ人文科学研究所編 1996. 『ブラジル日本移民史年表』 サンパウロ人文科学研究所による。 5) いずれもコンセッション契約面積。



ブラジルのテレビ番組



(『ピンドラーマ』 誌編集長)

ブラジルのテレビ番組と言えば大手各局が競作しているノ ヴェラ (連続ドラマ) やグローボニュースが有名だが、それ 以外にも個性的な番組が数多くあるので、今回はその中から いくつかをご紹介したいと思う。

まず最初は「302」という番組 (Canal Brasil)。

20~30代の素人の女性たちが、写真家ジョルジ・ビス ポがスタジオとして使っているアパートの一室(部屋番号が 302) で、全裸になって写真を撮られる様子と、別撮りした インタビュー映像で構成された10数分の短い番組だ。

インタビューではたいてい、ある困難な時期を過ごした後 (10代の頃にひどいいじめにあったとか、20才そこそこで 結婚した男性にひどい暴力をふるわれた等)、それを克服し、 自尊心を取り戻した経緯が生々しく語られ、話している途中 で感極まって泣き出す女性も多く見受けられる。

ヌード写真といっても、おデブさん、ガリガリさん、妊婦、さ め肌さん、とモデルのように均衡のとれた肉体の持ち主はあ まり登場せず、エロチックな印象はほとんど受けない。彼女 たちは最初は緊張して堅くなっているが、カメラの前で全裸 をさらけ出すことでどんどん気持ちが解放され、撮影が終わ る頃にはハレバレとした表情になっている。撮影した写真の いくつかを見て、得心の笑みを浮かべた所で番組は終了する。

次は「難民たち Refugiados 」(TV Futura)。

ブラジルに安住の地を求めてやって来た「難民」を毎回一 人取り上げ、祖国を離れざるを得なかった事情(内戦や政治 的・社会的圧迫による場合が多い)と、ブラジルに着いた後 の暮らしぶりを紹介していく。

彼らは皆、言葉の壁、文化・習慣の違いに最初はとまどい ながらも、祖国でつちかった技能(陶芸の技術や英会話の能 力等)を活用して、第2の人生を充実したものにしようと懸 命になっている。一方、彼らを受け入れ手助けするブラジル 人の側も、彼らの存在そのものから刺激を受け、新しい「何かし を確実に受け取っているようだ。ブラジル社会が絶えず新参 者を受け入れることで、自らの「多様性」を更新し続けてい る現場を垣間見ることができる。

次は「有名な無名者 Anônimos Famosos」(Cine Brasil TV)。 地元リオデジャネイロでのみ「有名」な大道芸人や物売り を紹介する番組。メジャーな舞台で脚光をあびる夢を捨てず に、街頭でのパフォーマンスを続ける彼らの姿と、それぞれ か持つ独自の人生観を紹介する。中でもシューシャ(ブラジ ルの有名な女性タレント)に憧れ、彼女とまったく同じ扮装・ 化粧をして、信号待ちをしている車の前でシューシャの歌を

以上の3番組に共通する制作姿勢は、「ありとあらゆる体 験を語らせ、社会の周辺に追いやられた人たちに耳を傾けるし ことのように思われる。

最後に取り上げるのは「法律ができる前と後 Antes & Depois da Lei | (Record News).

司法上級裁判所制作のこの番組は、ブラジル人の生活に大 きな影響を与えた法律(ここ20年間に施行されたもの)を毎 回一つ取り上げ、その法律ができた経緯・背景と、法律が施 行された後に起きた具体的な変化を様々な角度からわかりや すく説明し、一般の国民にも法律を身近なものに感じさせる。 これまで取り上げた主な法律は、いじめ防止法、奴隷労働禁 止法、飲酒運転取り締まり法、人種差別禁止法、高齢者の権 利保護法等。

例えば、DV 防止法 (Lei da Maria da Penha) を扱った 回では、ブラジル社会で妻が夫の暴力の被害になるケースが 非常に多いことの背景が説明され、DV 防止法施行以前では 家庭内の暴力を取り締まる法律がなかったため、ほとんどが 女性の泣き寝入りで終わっていたことが、かつて被害にあっ た女性たちの証言映像と共に示される。

それから、この法律に名前を冠された女性マリア・ダ・ペー

ニャ本人が登場し、彼女 が夫から何度もひどい暴 力をふるわれ(その結 果、車椅子の生活を余儀 なくされるまでなった)、 2度裁判に訴えたが退か れ、それでもあきらめず にその経験を本にして発 表したことがきっかけで DV 防止法ができたこと が生々しく語られる。



法律施行後、配偶者に暴力をふるった男性には重い刑が課 せられるようになり、女性からの訴え専門に対応する警察の 出張所や、DV 被害者を保護する一種の「駆け込み寺」のよ うな施設が設置され、大きな目に見える変化が社会に起こっ たことが示される。

この番組を観ると、ブラジルでは「全ての国民が同じ福祉 を享受する権利を持っている」という理念が様々な法律に よってダイナミックに実現されていく過程が良くわかる。ま

日 系 企 業 シリーズ 第 52 回

NTTグループの ブラジルでのチャレンジ



テレコムカンパニーから グローバル ICT カンパニーへ

NTT のブラジルでの歴史は古く、日本電信電話公社(電 電公社) 時代の 1974年、ブラジリアの駐在員事務所開設に さかのぼる。当時はまだブラジルの電信電話事業も民営化さ れていない時代で、テレブラスと呼ばれる国営会社が電信電 話事業を独占、テレブラスとの技術交流を目的として電電公 社のブラジル事務所が設立された。

その後、1985年の電電公社民営化により日本電信電話株 式会社 (NTT) が発足、1986 年に駐在員事務所をブラジリ アからリオデジャネイロに移転、その翌年の 1987 年に通信 事業会社として新たなスタートを切った。

1998年、ブラジルの電信電話事業が民営化されると同時 期に、サンパウロにブラジル本社機能を移転。NTT が分割 再編された同年以来、今年で満30年を迎えるに至った。

電電公社時代は、南米最大の石油会社ペトロブラス社や、 総合資源開発会社ヴァーレ社など、ブラジルの国営大企業に 技術コンサルティングサービスを提供、通信事業会社発足後 は、サンパウロに自前の通信設備 (POP) を構築、主に日 系進出企業向けの総合通信サービスの運用を開始した。

2010年には南米の通信会社と戦略的提携をし、南米全域 に法人向けの仮想専用線サービス (IP-VPN) が提供可能と なり、更に 2012 年には北米との間にグローバル IP バック ボーンを敷設、ブラジル国内のインターネットサービスプロ バイダーやコンテンツプロバイダーなどの事業者向けに、世 界最高水準の安定した IP バックボーンを運用しサービスと して提供している。

2014年にブラジルで開催された FIFA ワールドカップに おいては、このグローバル IP バックボーン上で初めて日伯 間の 8K スーパーハイビジョンのライブ中継に成功、そして 日本代表選手キャンプ地ではメディア向けに IP 伝送システ ムを構築、長らく衛星放送が主流の国際 TV 中継において、 インターネットによる低遅延の日伯間ライブ中継の成功例と して、日本の新聞紙上のみならず世界のメディアに取り上げ られた。

このブラジル FIFA ワールドカップでの成功により、 2016年のリオ五輪においては、日本向けに TV 中継用、大 容量データ転送用に複数のグローバル IP 伝送回線が採用さ

(C) MTE Group

れ、NTT コミュニ ケーションズの国 際诵信サービスに おける品質の高さ が証明された。

動き出した NTT グループの南米戦略

各グループ会社が独自の海外戦略を展開する中で、2010 年には NTT (持株会社) が Dimension Data 社 (南アフリ カ)を買収、NTT データも国際戦略を強化、2011 年にイタ リアの Value Team 社を買収、同社がブラジルに拠点を有 していたことから、ブラジル進出を果たす。更にその約3年 後の 2014 年には、スペインの everis 社 (スペイン) を買 収したことで、ブラジルを含む中南米6カ国(メキシコ、コ ロンビア、ペルー、チリ、アルゼンチン)において新たに拠 点を獲得、本格的に中南米市場への進出を果たした。

NTT ドコモも 2013 年にブラジル再進出を果たし、loT ソリューションや法人向けモバイルソリューションを中心に 事業をスタートしている。

everisがスペイン企業であることから、ブラジルでは、 Telefonica/Vivo や Santander 等のスペイン企業向けの IT コンサルティングサービスを軸に、通信及び金融業界の顧客 向けサービスを拡大、これまで NTT コミュニケーションズ 及び Dimension Data が提供してきたネットワーク・インフ ラサービスに加え、NTT ドコモの IoT、そして NTT データ がコンサルティング及び IT アウトソーシングサービスを提 供することによって、NTT グループによる IT 業務プロセス の上流行程から下流行程の全てを End-to-End で提供するこ とが可能となった。

ONE-NTT

everis の NTT グループ加入後、ブラジルに拠点を有する 4 グループ会社間の連携が強化され、2015年には、南米最 大の IT 展示会である FUTURECOM に NTT グループとして 参加を実現した。各社がブラジルにて提供しているコアサー ビスをはじめ、IoT やセキュリティソリューションの展示、 更にはブラジルの自動車教習所にて展開しているドライビン グシミュレーターのデモを実施、NTT グループがブラジルに おいて本格的に ICT 事業を展開し始めたと評され、大きな注 目を浴びて大盛況となった。

中南米の IT 市場は近年急成長を遂げており、IoT、AI、そ して情報セキュリティーや企業のデジタル化等も頻繁に話題 になるようになり、IT サービスへのニーズは益々高くなって いくものと思われる。グループを結集し、数少ない End-to-End ソリューションを提供できるアドバンテージを駆使して 顧客ニーズに応え、また新たな価値、安全で快適なイノベー ションを創発し、ブラジルマーケットにおける NTT グルー プのプレゼンスを高めていきたい。

ブラジル労働法改正、実務上の読み方(その1)



柏 健吾 (TMI総合法律事務所 日本法弁護士、 現在ブラジルで勤務)

ブラジルの労働法(1943年法5452号。以下「旧法」という。)を改正する法律(2017年13467号。以下「改正法」という。)が、2017年11月11日に施行された。旧法制定から74年を経て初めての大幅な改正である。今回100項目以上の改正が行われたが、その多くが企業に有利な内容になっている。本稿及び次稿において、実務上重要な改正点を紹介する。

1. 改正の背景及び今後の展望

.

•

.

.

-

.

-

4

.

-

.

ブラジルでは、法律上も裁判実務上も労働者保護の色彩が非常に強い。そのため、労働問題がブラジルでビジネスを行う上で大きな負担となっている。今回の改正の多くが企業に有利な内容となっているため、産業界からは多くの期待を寄せられている一方、当然のことながら労働組合などからは強い批判が続いている。

かかる批判を受ける形で、改正法施行直後の2017年11月14日には、早速改正法を一部修正する暫定措置808号が公布された(同暫定措置については2018年4月23日までに国会で議決されることになっている)。また、一部の労働裁判では、改正法に従わない形での判決が出ている。したがって、今回の改正内容が今後維持されるのかはまだまだ不透明な状況である。そして、そのような状況を鑑みて、企業の多くは、改正法に基づく現状の変更には二の足を踏んでいる。

2. 企業の日々の労務管理に影響を与える改正項目

(ア) 労働時間の取扱いの変更

旧法下では、労働者が社内にいる時間は労働時間と取り扱われるリスクが常にあった。改正法では、悪天候時の待機時間や個人的な勉強時間などは勤務時間とみなされないことが明記された。また、旧法においては、公共交通機関が存在しないなどを理由に会社が通勤バスを提供している場合には、通勤時間も労働時間とみなされていたが、改正法では、あらゆる通勤時間は労働時間とみなされなくなった。

(イ) 有給休暇の分割

旧法では、原則として有給休暇(年に30日)は1回で取得する必要があった。改正法では、労働者との合意により、3回に分けて取得することが可能となった(ただし、5日未満は不可、かつ、1回は14日以上)。

(ウ)賃金

改正法において、賃金として扱われないものが明記された。具体的には、必要経費、食事補助費、出張手当、ボーナス等は仮に継続的に支払われていたとしても賃金として取り扱われなくなった。その結果、これらの金額は社

会保障費等の算定基礎に含まれなくなる。

(エ)組合費の支払い

旧法では、労働者が労働組合に支払う組合費(給料の1日分)を会社が給料から控除して組合に支払うことが義務であった。改正法では、会社が給料から控除するためには労働者の事前の同意が必要になった。本改正については、労働組合からの批判が非常に強く、すでに多くの訴訟が提起されている。そのため、今後の裁判所の判断次第では本改正は事実上無効になる可能性もある。

(オ) 雇用契約の終了に関する改正

ブラジルでは原則として解雇は自由である。改正法では、旧法下では要求されていた解雇時の労働組合の認証を不要にした。また、これまで認められていなかった会社及び労働者の合意による雇用契約の終了が新設された。合意解約の場合、解雇に比べて会社が支払う解約金が少なく済み、また、労働者はFGTSという退職補償金を一定額まですぐに引き出せるというメリットがある。

(カ) アルバイト

改正法により、日本のアルバイトのように、時間、日又は 月単位で就労する雇用形態(Trabalho Intermitente)が新設 された。これにより、1日に数時間、週に数日といった雇 用が可能となる。ただし、本形態については暫定措置808 号により多くの修正が加えられるなど不透明な点が多く、 実務に定着するにはまだまだ時間がかかると思われる。

(キ) 在宅勤務

改正法により、在宅勤務が明文化された。在宅勤務の場合、原則として勤怠管理を行う必要ななく、その結果 残業代は発生しない。その他の権利は他の労働者と同じである。

(ク) アウトソース

従来アウトソースは、裁判例により、清掃、警備業務などの非コア業務に関してしか認められていなかった。2017年3月に、労働法とは別の法律(2017年法13429号)においてアウトソースに関する条文が新設されたが、同法では許容されるアウトソースの範囲・要件が不明瞭であった。そのため、改正法でアウトソースに関する改正も行われ、いかなる業務に関してもアウトソースが可能であることが明記された。

(ケ) 高額給与所得者との特別の合意

大学卒で、かつ、社会保障制度 (Regime Geral de Previdência Social) の給付金上限額の2倍以上の給与(現在は11,062.62レアル)を受け取っている労働者との間で、一定事項(労働時間、残業時間の振替、休憩時間、休日の変更等)に関して個別合意をした場合、当該合意が労働協約や労働法より優先されることになった。また、かかる者との間では、雇用契約に記載することにより、紛争解決手段として仲裁制度を利用することができるようになった。

eSocial 及びEFD-REINF **労務管理の近代化**





ヴァルテル・シミズ / 吉田幸司 (KPMG サンパウロ事務所パートナー

2018年より政府への新たな申告方法により、ブラジル企業に対してさらなる負荷が生じる???

ブラジル通の方はご存知の SPED (電子帳簿システム)が 2007 年 1月22日法令6,022号により規定され既に10年以上が経過している。"SPED"とは、政府へ提出される税務と会計に関する帳簿及び書類を電子データで一元管理する電子帳簿システム全体のことである。

別の言い方をすると、税務当局と納税者との間のコミュニケーションの近代化であり、eSocial 及び EFD-REINF も、SPED に含まれているシステムである。

現在、労務に関する報告(例えば RAIS [従業員年次レポート]、 DIRF [源泉徴収税申告書]、CAGED [雇用・失業登録システム]等)は、 別々になされているが、eSocial 及び EFD-REINF により今後はす べて一本化される。また、eSocial 及び EFD-REINF により、提出 期限遵守の重要性が更に増すことになる。

段階的であるもののこれらは 2018 年度より運用開始しており、 現時点でブラジルに進出する日系企業が知っておくべき主要な事項 について以下にまとめた。

eSocial 及び EFD-REINF とは?

1) eSocial とは?

雇用関係、FGTS (勤続期間保障基金)、社会保障、労働環境、休暇、 労災、給与といった情報、つまり、労働者に関する情報を企業が政 府に電子データにて提出するものである。

2) EFD-REINFとは?

サービス契約を通して提供/取得したサービス及びそれに関する源泉徴収税(例えばIRとCSLL)並びに売上に対する社会保障料に関する情報を企業が政府に電子データにて提出するものである。

適用開始時期

eSocial と EFD-REINF は、すべてのブラジル企業に義務付けられているものであり、適用開始時期は、以下のとおりである。

eSocial

- 2016年度売上高が7,800万レアル超の企業:2018年1月より適用開始
- 2016 年度売上高が 7,800 万レアル以下の企業:2018 年 7 月より適用開始

•EFD-REINF

- 2016年の売上高が7,800万レアル超の企業:2018年5月より適用開始
- 2016年の売上高が7,800万レアル以下の企業: 2018年11月より適用開始 ただし、現実的に対応可能とするために eSocial と EFD-REINF

たたし、現実的に対応可能とするために eSocial と EFD-REINF について現時点 (2018年3月末現在) では以下の通りに段階的な適用開始時期が定められている。

●eSocial の提出スケジュール

【売上高が7,800万レアル超の企業】

	フェーズ	適用開始時期	提出される情報
	第 1 フェーズ	2018年1月	雇用主の情報等の基本、運用に関する報告事項
	第2フェーズ	2018年3月	労働者との雇用者の関係 (採用、解雇など)等の非 定期的報告事項
	第3フェーズ	2018年5月	給与等の定期的な報告事項
	第4フェーズ	2018年7月	DCTF WEB の運用開始 GFIP(FGTS 及び社会保障の徴収証票) からの変更
	第5フェーズ	2019年1月	労働衛生環境(健康診断書等)に関する報告事項

【2016 年度売上高が 7.800 万レアル以下の企業】

上記スケジュールの6か月後より適用開始(ただし、第5フェーズは2019年1月より開始)。

●EFD-REINF の提出スケジュール

【売上高が7,800万レアル超の企業】

2018年5月1日以降に生じた関連する事象について、EFD-REINF を通じて提出される。

(ただし、源泉徴収税に関する情報については、その適用開始日はまだ明らかにされていない。)

【2016年度売上高が7,800万レアル以下の企業】

2018年11月1日以降開始される。

留意事項

- ・今まで提出する必要のなかった情報(例えば、健康診断書、労働裁判番号等)も今後 eSocial を通じて政府に提出されるようになり、また、その報告期日も非常にタイトである。これらに準拠するためには何かしらの対応が求められる可能性がある。
- ・政府側でシステム (eSocial、EFD-REINF だけではなく、その他のシステム (例えば、電子会計帳簿 (EDC)、法人税申告書 (EFD-IRPJ) など SPED 全体)) を通じて提出された情報のクロスチェックが出来るようになる。提出された情報の間で不整合があった場合には、政府から質問を受ける可能性があり、提出される情報の整合性を保つことが重要といえる。
- ・労働法の改正により、より弾力性のある法律となったと言ってもブラジルにおいて労務管理は頭の痛い問題の1つであり、その中でも休暇の管理に頭を悩ます企業も多いと思われる。eSocialによって、従業員の休暇情報も提出されることになり、法律遵守のためにより厳格な管理が求められる可能性がある。なお、役員ではない日本人駐在員もこの休暇の管理対象となることから日本人駐在員の休暇取得について今後検討が必要な企業もあるのではないかと推測する。
- ・上述している DCTF WEB の運用開始により、FGTS 及び社会保障料 (INSS)を政府が計算し、その計算結果を企業が受取った後、厳しい提出期日の中で支払いをすることになる。当該計算は上述の第1フェーズで提出される情報の1つである"報酬に関するFGTS/INSS 対象項目表"及び月次の給与情報に基づいて計算されることから、第1フェーズで提出される"報酬に関するFGTS/INSS 対象項目表"は非常に重要である。
- ・最後に、ブラジル企業に駐在する日本人駐在員情報も eSocial を 通じて提出されることになることから、日本人駐在員がブラジルに 赴任するにあたり、CPF を日本出発前に取得しておくことをお勧め する。

なお、ブラジル政府は、現在もなお、eSocial 及び EDF-REINF のマニュアルの変更を行っており、また提出期日も変更される可能性もあることから、まだまだ流動的な部分もあり、なかなか悩ましいところである。

私の声楽勉強とブラジル



田中陽子

(声楽研究家、元スペイン大使夫人

● 016年3月、日本ブラジル中央協会が"ブラジルクラ ―シック音楽のきらめき"と銘打ったコンサートを開催さ れ、私も歌わせていただいた。私が選んだ曲は、ヴィラ=ロ ボス作曲『ブラジル風バッハ5番』、カルロス・ゴメス作曲 『誰が知っている』そして現代作曲家ロナウド・ミランダの 『カンターレス』の3曲。いずれもサウダージをテーマにし た曲だ。特に『ブラジル風バッハ5番』はブラジルの大地と 自然の豊かさを背景にした哀愁を帯びた名曲だ。海に映える 夕焼けを見ながら胸に込み上げて来る切ない気持ちを歌った R.V. コヘアのポルトガル語歌詞は素晴らしく、多くのクラ シック歌手が好んで歌う美しくも難しい曲だ。このコンサー トには駐日ブラジル大使ご夫妻をはじめ多数のブラジルの方 もいらして下さったが、コンサート後、私へのお褒めの言葉 とともに「ブラジルにも素晴らしい歌曲があることを皆様に 紹介していただきとても嬉しい」との言葉もいただいた。

【Ⅰ とブラジル歌曲との出会い、そして私の声楽勉強は 1994年サンパウロで始まった。総領事をしていた夫 の仕事の関係でサンパウロには3年余滞在したが、同地に着 いて1年程たった頃『サンパウロに凄いバリトン歌手がいる』 と聞き、知人を通して紹介して頂いた。ある日『クラスに空 きが出たので、良かったらどうぞ』とご本人から流暢な英語 で電話がかかって来た。翌朝モルンビから車を運転してリ ベルダージにある FAAM 大学音楽部へ駆けつけた。3大テ ノールのパバロッティとも共演したドラマティックバリトン の Carmo Barbosa 氏がそこで教えていらした。氏はニュー ヨークのマンハッタン大学に留学し、メトロポリタンオペラ 劇場のプリマドンナであるユーゴスラビア生まれの Zinka Milanov の下で、伝統的ベルカント唱法を勉強なさりそれ を受け継いだ方だ。ニューヨークをはじめ、スイス、ドイツ の歌劇場で歌っていらした。最初の発声練習で、氏は自らの ドラマティックな声でお手本を示された。大きな身体から発 する柔らかな声は教室の外まで何処までも気持ちよく鳴り響 く。ブラジルにはサンバ、ボサノバだけでなく、超一流のオ ペラ歌手もいるのだと驚いた。この瞬間この先生に声楽を習 いたいと思った。

6 カ国語を話す Barbosa 氏の教え方の特徴は自分で 歌って聞かせてくれることである。ソプラノの歌でも テナーの歌でも何でも歌って教えてくれる。生徒はお手本を 見てその声を聞いて歌う、というごく自然で大変恵まれた方 法で学べる。FAAM 大学には素晴らしい生徒達や歌手達が 沢山来ていた。すでにブラジル内外で活躍していた Adelia Issa, Berenice Barreira をはじめサンパウロ・ムニシパ ル劇場の合唱の人達、そして、後年、バイロイト音楽祭の常 連歌手として活躍することになるバスバリトンの Diogenes

Randes も氏から声楽の基本を習っていた。

→ ンパウロにいたこの時期は、カルドーゾ大統領の政策 が功を奏し政治経済が安定回復した時期で、また日伯 修好 100 周年を迎え多数の行事が行われた時期でもあった。 夫とともに色々な行事に出席するなど、私も忙しくはあった が、良い先生に師事しているとの充実感もあり何とか声楽の 基本を習得することができた。当時美術界でご活躍中であっ た画家の大竹富江氏にお目にかかった時、彼女から、子育て 中も美術への情熱は失わなかったが、育児から解放された時 に遅まきのスタートをしたとのお話をお伺いした。そして「何 をするにも情熱があれば遅すぎることはないから頑張ってく ださい、貴女には歌への情熱を感じます!」と仰った。これ は私が声楽にのめり込む上で大きな影響を与えた有り難いお 言葉だ。それまで歌うことは好きで合唱部にはいっていたこ とはあったが育児や家事、転勤に伴う雑事があって、深く勉 強出来る機会がなかった私には天の声に聞こえた。

▲ 997年帰国し1年半ほど日本にいた後、夫の転勤でメキ シコ、スペインへと移ることになったが、この間、何故か 日本に戻ってしばらくすると自分の声がわからなくなってし まうことに気づく。日本語が喉を圧迫する言語だからか、日 本の文化習慣で自分自身が硬く閉じこもってしまうのかわか らないが、歌うためにはブラジルの自然の豊かさ、人々の寛 容さが大きな助けになっていたようだ。オペラを勉強するの であればヨーロッパへ行くのが普通だが、私は窮地に追い込 まれるとブラジルへ飛ぶ。友人でありポルトガル語の先生だっ たテレザが彼女のマンションの一室を提供してくれ居心地良 く滞在させてくれる。不思議なものでグアルーリョス空港に 着くと、身体の芯からリラックスして自分の声が戻ってくる。

◀ 999 年には、メキシコにいた私に先生から声がかかり、 サンパウロの Sâo Pedro 劇場でオペラ "ドンジョバン ニ"のツエルリーナをダブルキャステイングで歌うことに なった。簡略化されたピアノ伴奏によるオペラであったが歌 いながら演技をすることの面白さも経験できた。これは日本 やヨーロッパにいたら私には絶対に与えられなかったであろ う貴重な体験であった。

■ 近は、私の声域もソプラノからメゾソプラノに変化し **其又**てきており、先生からはフランスオペラも勉強するよ うにと言われている。新しい課題の克服に四苦八苦の状況で あるが skype で地球の反対側のブラジルから直接ご指導を 頂ける。今でも私が歌うことへの情熱をもち続けられるのは、 幸運にもブラジルの大地で素晴らしい音楽家に出会えたこ と、そして私を励まして下さった多くのブラジル人、日系人、 ブラジルでご一緒させていただいた日本の方々のお陰である と感謝し、ブラジルとのご縁の深さを改めて感じている。



ウーマン・ア

点と点が繋がるブラジルでの時間

12年ぶりの日本の春、ようやく1年になる新居のベラン ダから満開の桜の美しさを楽しむため、ウッドパネルをベラ ンダに敷いてみた。我が家の3歳児と一緒に楽しめるように と選んだのは、滑らかで素足でも歩けるという天然木材。見 ればなんとブラジルのマットグロッソ州産だった。単なる偶 然なのだが、その意外性が何とも嬉しく、愛すべきブラジル と繋がっていたいという気持ちを再確認した。

ブラジルで 10年、現地のマーケティングマネージャーと して日本企業の販社の立ち上げから関わり、そして MBA 取 得、出産、育児を経験したが、既によそ者になってしまった この日本で、どう新しい人生の絵を描けるのか。帰国し、生 活基盤の変化に対応することは、価値観の異なる空間へ飛び 込んだようでもあり、想像以上に容易ではなかった。

日常の移動手段であった車は、日本では、電動自転車に代 わり、息子の保育園への送り迎えや、買い物にと東奔西走す る。家事の手助けしてくれたお手伝いさんはいなく、自身の 家事力なさを痛感し、最新の家電が右腕となった。極めつけ

は、日本の季節の移り変わりに、衣替えどころか、家電替え もしなくてはならない事。ただ一方で、子供や高齢者の為の 優先レーンがスーパーや銀行などにはなく、それを快く明る く手助けてくれるブラジル人はいない。沢山の利便性はあり ながら、なぜか孤立してしまいそうな日本と感じた。

すっかり浦島太郎になった私が、手探りで日本の生活を立 ち上げていく、原動力の一つになった活動があった。これか ら渡伯し、現地の生活に慣れていくのも一筋縄でいかないと いう経験から、渡伯前の駐在員帯同家族(夫人)に現地情報 を伝える活動を友人が始めたのだ。私はこの「シームレスウー マンプロジェクト」が企画する活動を通し、現地の情報を伝 える事で、幸いにも貴重な時間を過ごしたブラジルの良さや 生活を、この日本でも身近に感じ続けている。

ブラジルには切れない縁があり、もはや自分と一体化して いる。無我夢中に過ごした時間がくれた数々の出会いは点と なり、それが今少しづつ繋がり、自分が目指す線になろうと している。

ジャーナリストの旅路

本当のブラジルを伝えているか

ブラジルといえばサンバとカーニバル―。背中に大き な羽根をつけた女性がサンバに合わせて踊る姿は、今もブ ラジルの典型的なイメージであり続けている。2月ごろに 行われるリオデジャネイロのカーニバルには毎年、世界中 のメディアが押し寄せ、華やかなパレードの様子を写真や 映像で伝える。記者室はいつも満員だ。「サンバの国」の イメージは、日本以外の国々でも変わらないようだ。

ブラジルで特派員として働いた3年半、私も取材でリオ のパレードを追いかける一人だった。「地上最大のショー」 とも呼ばれる祭典の華やかさとスケールの大きさは、息を のむほど素晴らしい。一方で、リオの町中に身を置くと、 恒例のパレードはあくまで一つの側面に過ぎないことにも 気付かされる。

たとえば、観光客であふれる大がかりなパレードよりも、 近年、リオ市民が楽しんでいるのは、むしろ「ブロッコ」 と呼ばれる路上カーニバルだ。思い思いの仮装をした市民 が路上や公園に集まり、音楽に合わせて体を揺らしたり、 談笑しながらビールを飲んだりする。流れる音楽もサンバ とは限らない。ポップスもあればロックもある。この 10 年ほどで急速に広がり、数百万人が参加する勢いだ。ショー

田村剛 (朝日新聞国際報道部記者 前サンパウロ特派員

化したパレードではなく、カーニバルを自分たちで楽しも うとする動きが背景にあるらしい。

サンバやカーニバルと結びついたブラジルのイメージは もともと、バルガス元大統領が観光促進のため、1940~ 50年代に映画やテレビを使って進めたキャンペーンで世 界に広まったとされる。今日の浸透度を見ると、バルガス 氏の試みは大成功を収めたと言っていい。だが、当然なが ら、実際のブラジルはもっと多様で、価値観も様々だ。誰 もがサンバやカーニバルを好きなわけでもない。

「そもそもブラジルの女性が裸に近い格好で踊るイメー ジは好きじゃない。そんな先入観だけでブラジルを見てほ しくない」。カーニバルの取材中、そんなリオの女性の言 葉にはっとしたことがある。記者としての私はブラジルの 姿をどれほど正しく伝えてこられたか。ともすると、イメー ジに合ったブラジルの一部だけを切り取って日本に送って いるのではないか。そんな自省の念がこみ上げた。

サンバやカーニバルがブラジルの大きな魅力の一つであ るのは間違いない。だが、ステレオタイプ化してしまって は本当の姿を見失うことにもなりかねない。正確に伝える ことの難しさを、改めてかみしめている。

今年のリオのカーニバル 政治プロテストもあれば世界史野外教室もあり

岸和田仁(『ブラジル特報』編集人)

リオのカーニバル。このド派手なパフォーマンスで有名な世界 最大規模の野外ショーは、いうまでもなくブラジルの世相を反映 するイベントでもある。

今年は、リオ州もリオ市も財政的に破たん状態で、ない袖は振れず、参加サンバチーム(エスコーラ・デ・サンバ)への補助金も半減となり、一時は開催そのものが危ぶまれたのであった。だが、2月中旬に専用会場サンボードロモで展開されたスペシャル・グループのパレード競演はそんな事前の懸念を吹っ飛ばすほどの盛り上がりをみせたのだった。いや、大荒れのカーニバルとなった、というほうが正確かもしれない。

なにしろ今年のリオのカーニバルは、政治色の強い凄まじい政権批判・プロテストで塗りつくされていたからだ。優勝したベイジャ・フロールの山車は、巨大なネズミを模したカラフルなもので汚職・政治腐敗、治安の悪化を糾弾する内容であり、ファヴェーラ(スラム街)での銃撃シーンやペトロブラス(国営石油会社)を舞台にした超大型贈収賄汚職のシーンが演じられていた。(ちなみにポルトガル語でネズミとは泥棒やゴロツキの意味。)准優勝のパライゾ・ド・ツイウチのパレードではテメル現大統領を吸血鬼に仕立て、直球の強烈な政府批判を展開し、老舗のマンゲイラに至ってはリオの現クリヴェラ市長を裏切者ユダに擬して、なんと市長を絞首刑にせよ、と暗に主張していた。これほどまで政治批判が過激化したカーニバルはなかった、といえるほど"大荒れ"になったのがリオであった。

ブラジル人もびっくりの"過激な政治劇"ばかりとなった今年のリオ・カーニバルのなかで、"落ち着いて"ブラジルの歴史を振り返るテーマを選択したのが名門サンバ・チーム、ポルテーラであった。

もっとも、入場してきたポルテーラのパーフォーマー一団に引き続き、舳先にドクロと骸骨が張り付いた海賊船に模した山車が出てきたのだが、さらには別の山車の上部には、ニューヨークの自由の女神像が鎮座していたのだから、フツーのブラジル人は「海賊とニューヨーク?なんだコレ」と思ったはずだ。

エンレド(テーマ)は「突然あちらからこちらへ、また急にこちらからあちらへ」であったが、ポルテーラのパレードをみた観客の何割がこの演題やその歴史的背景を理解したかといえば、おそらく2割以下ではないか。さすがにTV中継放送では背景を詳しく説明していたが、新聞や雑誌メディアでこのポルテーラを取り上げたのはほとんどなかったのだ。唯一の例外が、この歴史劇の舞台となったレシーフェの新聞(ジョルナル・ド・コメルシオ紙)で、このテーマが採用された経緯も含め詳しく報道していた。

この、多くのブラジル人が理解できなかったポルテーラの演題とは、ユダヤ人のディアスポラ (離散)とノルデスチ〜ニューヨークの繋がり、であった。という次第で、このユダヤ人ディアスポラの歴史背景をちょっと復習してみたい。

時は 1600 年代。17 世紀といえば、日本では江戸幕府が確立され、海外との交流を制限した鎖国システムが導入された時代であるが、そのころ欧州では、16 世紀から狂信的に広まった異端

審問というユダヤ人迫害から逃れるべく多くのユダヤ人やクリスタゥン・ノヴォ(キリスト教徒に改宗したユダヤ人)がスペイン、ポルトガルからオランダへ移住し、さらにその一部がオランダ支配下のノルデスチ(ブラジル東北部)とりわけレシーフェへ移っていった時代だ。当時のブラジルにおける最先端ビジネスであったサトウキビ事業の半数以上を商才にたけたユダヤ系が牛耳っていくのだ。

そんなつかの間の繁栄と安寧は、1654年、ポルトガル軍によるオランダ軍撃退によってあえなく瓦解、ユダヤ人たちは、欧州に戻るか、カリブのサトウキビ・プランテーションへ転戦するか、ともかく国外脱出するしかなかった。その一部の23人が、苦難の末、当時ニューアムステルダムとよばれた今のニューヨークに到達したのだが、それは1654年9月7日のことであった。米国史における最初のユダヤ人はレシーフェ出身であった、というのが歴史的ファクトである。

当時のマンハッタン島での新教徒カルヴァン派による植民は初期段階で集落の人口は700名ほどでしかなく、一方、サトウキビで栄えていたレシーフェの人口は7千とも1万ともいわれている。当時の感覚では、繁栄する大都市レシーフェから遅れた僻地ニューアムステルダムへ逃げ込んだ、というところだろう。

この台本を執筆・演出したカーニバル劇演出家のローザ・マガ リャンイスにとっては、このユダヤ人の流浪物語もまさにブラジ ルの歴史なのだ、と主張したかったのだ。

換言すれば、リオのカーニバルは、ブラジル史いや世界史の野 外教室でもある。





ポルテーラのパレード (YouTube より)

ルーラ元大統領、収賄罪で逮捕・収監

ルーラ元大統領(在任期間:2003年—2010年)が収賄と資金ロンダリングの罪で有罪、禁錮12年1か月の二審判決を受けたのが、今年1月であったが、刑の執行・身柄拘束をされないための人身保護令を最高裁に訴えたため、4月4日、最高裁にて11名の判事による、11時間に及ぶ審理が行われた。その結果は、6—5という僅差であったが、上訴は却下されることになった。このため、翌5日、クリチバ連邦地方裁判所は刑の執行を決断した。

4月6日の出頭期限から一日遅れの4月7日夕刻、ルーラ被告は連行され、クリチバ市の連邦警察にて収監された。 この収監により、10月の大統領選挙への出馬は事実上不可能となった。

米中貿易摩擦は短期的にはブラジルに漁夫の利

4月5日付けヴァロール・エコノミコ紙によれば、貿易 戦争となりつつある米中間通商摩擦はブラジルに漁夫の利 をもたらすかもしれない。

報復関税の対象品目は多岐にわたるが、数量的にも金額的にも大きなものが大豆である。昨年の中国の大豆輸入量は約1億トンであり、産地国別でいけば、1位ブラジル(5,093万トン)2位米国(3,300万トン)となっているので、この米国分の一部でもブラジルに振り替えることになれば、という可能性があるからだ。

もっとも、今年のブラジルの輸出余力(収穫量マイナス国内需要分)は6千万トンほどと見込まれているだけに、もしもこの実力以上の中国向け輸出を行うとなれば、米国産大豆をブラジル国内需要向けに輸入する必要が出てくるだろう。

2017年 GDP成長率

3月1日, ブラジル地理統計院 (IBGE) は, 2017年第4四半期 ($10 \sim 12$ 月) の GDP 実質成長率 (速報値) が, 前期比+0.1%、前年同期比+2.1%となり、2017年通年のブラジルの GDP 実質成長率が+1.0%となったと発表した。主なポイント以下のとおり。

- (1) GDP 実質成長率は+ 1.0%となり、2年連続の大幅なマイナス成長(注:2015年,2016年ともに▲3.5%)から脱して、3年ぶりにプラスを記録した。供給面では、農業は+ 13.0%、工業は± 0.0%、サービス業は+ 0.3%であった。
- (2) 2017年の名目 GDP は 6 兆 5,599 億レアル, 1 人 当たりの名目 GDP は 31,587 レアルとなった。この結果, 1 人当たりの実質 GDP は前年比+0.2%のプラスとなった。
- (3) 需要面では、4年連続で総固定資本形成(▲ 1.8%)

が減少した。家計消費 (+ 1.0%) はプラスに転じた。政府 消費(▲ 0.6%)は引き続き減少した。また,外需については, 財・サービスの輸出 (+ 5.2%), 財・サービスの輸入 (+ 5.0%) がともに増加した。

(4) 2017年における投資の対 GDP 比率は 15.6%で, 2016年の 16.1%を下回った。また, 2017年の貯蓄率は 14.8% (2016年は 13.9%) であった。

世論調査結果: テメル政権支持率

3月6日, CNT (伯全国運輸連盟) / MDA社による 合同世論調査(2月28~3月3日実施,25州137市, 2002人対象)の結果が発表されたが、テメル政権の支持 率は以下の通り。

政権支持率

- (1)悪い/非常に悪い:73.3%(昨年9月.前回調査:75.6%)
- (2) 普通: 20.3% (前回調査: 18.0%)
- (3) 良い/非常に良い: 4.3%(前回調査: 3.4%)
- (4) 分からない: 2.1% (前回調査: 3.0%)

中銀の政策金利引下げ

3月21日,ブラジル中央銀行の金融政策委員会(Copom) は、政策金利(Selic)を0.25%引き下げて年率6.50%とする旨を全会一致で決定した。政策金利の引下げは12会合連続となった。

同委員会の声明によれば、

- **1)** (中銀が週次で発表する) フォーカス調査による 2018 年のインフレ期待は、3.6%前後である。2019 年の期待及び2020年の期待は、それぞれ4.2%前後、4.0%前後である。
- 2) フォーカス調査から抽出した金利及び為替レートの方向性に基づくシナリオにおける Copom のインフレ予測は、2018年は3.8%前後、2019年は4.1%前後である。このシナリオでは、2018年末の政策金利は6.5%、2019年末は8.0%と想定している。

また、22日付けエスタード・デ・サンパウロ紙によれば、(ア) 中銀は、前回会合(2月7日)において、Selic を 7.0% から 6.75%に引下げた際、金融緩和サイクルの終了を示唆していたが、今回会合では、1月の IPCA(拡大消費者物価指数)が予想を下回る値だったことを受け、更なる Selic 引下げを実施。5月会合での追加引下げの可能性も示唆した。

(イ) フランシスコ・ファクター銀行チーフエコノミストのゴンザレス氏は、「3月のIPCAも引き続き、下限目標である3.0%を下回るだろう。消費が弱いことが主な原因であり、6月会合には6.0%まで引下げられる可能性もあるのではないか。」と話している。

新刊書

◆◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆◆

『地図で見る ラテンアメリカハンドブック』 (オリヴィエ・ダベーヌ著、太田佐絵子訳) 大きく6章(歴史の遺産、広大な土地・ 資源・入植、発展一安定と不安定、文 化と革命、政治体制、ラテンアメリカ と世界) に分け、ラテンアメリカ諸国 をマクロとミクロ両面からあぶり出し ている。歴史地図や図表を多用した解 説が特徴。米国の歴史的影響力はもち ろん、「ラテンアメリカ征服に乗り出 す中国 | についてもコンパクトに叙述 されている、フランスの研究者(パリ 政治学院教授)による最新ラテンアメ リカ案内(原著2016年)だ。

『世界イディッシュ短編選』

(原書房 2017年12月 165頁 2,800円+税)

(西成彦編訳)

世界各地に離散した東欧系ユダヤ人に よるイディッシュ語文学の"世界性" を感得できる短編集。作家たちの活動 場所は欧州、米国、アルゼンチン、南 アフリカ、ブラジルなどだが、作家口 ゼ・パラトニクの『泥人形メフル』は リオに移住した主人公がフラメンゴや コパカバーナで行商をしながら恋人に 出会って、とブラジル社会における生 き様をユーモア交え描く佳品だ。これ はイディッシュ語表記によるブラジル 文学ともいえるだろう。

(岩波文庫 2018年1月 345頁 920円+税)

『移民が紡ぐ日本』 (河原典史·木下昭編)

日系移民研究の進展をめざした共同研 究論集。全9章から成るが、第三章 の半澤典子「ブラジル移民知識人香山 六郎の言動一移民俳句と日本語新聞を 通して」は、邦字紙『聖州新報』を発 行した言論人として知られる香山六郎 が、現地の環境・風土に合ったブラジ ル風俳句を創作した俳人でもあること を明示した、貴重な論文だ。確かに、 ホトトギス派の日本俳句崇拝主義とは 異なるブラジル移民文芸を志向した特 異な知識人なのだから。

(文理閣 2018年3月 260頁 3,000円+税)

『外地巡礼「越境的」日本語文学論』 (西成彦著)

博覧強記の比較文学者による「外地の

日本語文学」の拡散、収縮、離散を論 じた著作だが、この研究対象にはブラ ジル日本語文学も含まれる。1920年 代から本格的に展開されてきた「コロ ニア文学」だが、「ブラジル社会への 同化が進んだだけ、その同化方向の多 様性が、ブラジル日本人が同胞を見る 目の多様化をあおるかたちとなって」 いるが、著者は戦後移民作家リカルド・ 宇江木の歴史長編『花の碑』で描かれ た歴史観に注目している。

(みすず書房 2018年1月 303頁 4,200円+税)

◆◆◆◆◆◆新盤紹介◆◆◆◆◆◆ 『ウン・コルポ・ノ・ムンド』

(ルエジ・ルーナ)

アフロ・バイーアの新潮流を代表する ルエジはサルヴァドール生まれの若手 (30歳) シンガー・ソングライター。 このファーストアルバムに収録された 曲のほとんどが彼女のオリジナルで、 カンドンブレのリズムからノルデスチ 音楽に通じるものまで多様なアフロの リズムに、アフロ・ブラジル宗教色に 富む歌詞が融合している。バイーア出 身ミュージシャンが昨年リリースした アルバム約 150 枚のなかで音楽批評 家たちが一位に選出したものだ。

(インパートメント 2018年2月 3.000円+税)

!! 「びっくり豆知識」!!

魁聖スタイルの大相撲はのんびり、ほどほど

――「先輩にやられたのと同じことを後輩にする」

――「いや、先輩にやられたことは後輩には絶対にやらない」 日本の学校の部活動で暴力・シゴキ事件が絶えない。先生 と生徒、生徒同士と様々だ。それが高校野球の有名校だった りすれば、マスコミの餌食となって世の中に伝わる。大学 の「体育会」も同様の問題を抱える。2つの正反対の対応で、 部活動や体育会の善し悪しが決定的となる。

といっても上記はあくまでアマチュアスポーツの話。これ がプロスポーツの世界となると状況は一変する。選手や力士 にとっては生業だから、やる方もやられる方も真剣勝負だ。 このところ何かと話題になるのが大相撲。「無理ヘンにゲン コツ」と呼ばれる厳しい世界で、暴力と稽古が混在し、気分 次第ではケンカに近くなる。

昨年の横綱日馬富士の貴ノ岩への暴行(後に日馬富士は引 退)に続いて、今度は貴乃花部屋の十両貴公俊が付け人を殴 る事件を起こした。

そんな暴力騒ぎを吹き飛ばす活躍を見せたのが、ブラジル 生まれの3世力士、魁聖(本名菅野リカルド)だ。3月の春 場所は鶴竜の優勝で幕を閉じたが、前頭の魁聖は12勝3敗 という大健闘で、3度目の敢闘賞に輝いた。

実はこの人、16年7月場所でブラジル人の最高位、東関 脇に昇進したことがある。ところが、頂上に近くなるとなぜ か負けが込む。初土俵から12年経ち、いまだに対横綱戦未 勝利と不名誉な記録を持つ。番付のアップダウンを繰り返し ているうちに、31歳になってしまった。春場所でも優勝が からむ 13 日目に横綱鶴竜に負けた。「結びの一番は初めて だった。それで負けるのは俺らしい」と納得のコメント。

友綱親方は魁聖を「のんびりしている」と評する。実力は あっても、ほどほどの頑張りで、そこそこの成績をあげれば いいと考えているのだろうか。根性とか我慢とかシゴキを連 想させる言葉はこの人には似合わない。相撲アナウンサーの 中には「もっと闘志を前面に出せ」「上位陣に勝つイメージ がわかない」などと物足りなさを指摘する人もいる。

今や外国人力士は珍しくない。春場所の幕内力士は42人 (休場含む)。うち外国出身はモンゴル6人、ブラジル、ブル ガリア、ジョージア、中国各 1 人の計 10 人で、約 25%に のぼる。本来なら日系人の多いブラジル人力士がもっと活躍 しておかしくないが、十両以上になかなか上がれない。ブラ ジル出身に大相撲文化は合わないのか。来場所の魁聖にか かっている。(W)



中南米経済速報

経済情報を毎週月曜日にお届けします。地域 経済圏の動き、インフラ整備やエネルギー・ 資源開発、各国のマクロ経済、投資案件、労 働問題などを日本語でお読みいただけます。

■購読料:14,000円/月(税別)

CRONICA (クロニカ)

政治・治安情報を速報でお届けします。月~ 金に速報版を、火・金にレギュラー版を配信 します。社会情勢、犯罪情報、武器密輸、 麻薬問題、自然災害などを取り扱います。

GRONICA

■購読料:30,000円/月(税別)

有限会社イスパニカ

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル

Tel. 03-5544-8335

Fax. 03-5544-8336 Email: hola@hispanica.org

通訳・翻訳、語学研修も行っております

で検索!

イスパニカ





中南米経済速報

2017年7月17日 月曜日発行 通報第 1220号

日本ブラジル中央協会 からのお知らせ

協会イベントのご案内

参加のお申し込みは、協会HP お申し込みフォームにてお願いします

子安昭子 上智大学教授の講演会

演題:ブラジルテメル政権によるメルコスル再構築の動きと日本

日 時: 2018年5月30日(水) 14:00~15:30 新橋ビジネスフォーラム会議室

住 所:港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル8階

参加費: 個人会員1,000円, 法人会員 2,000円, 非会員 3,000円



田村剛 朝日新聞前サンパウロ支局長の講演会 演題:サンパウロ支局長として見聞したブラジルを語る

日 時: 2018年6月7日(木) 14:00~15:30

新橋レンガ通りホール

住 所:東京都港区新橋2-14-4 マルイト新橋レンガ通りビル 4F

参加費: 個人会員1,000円, 法人会員 2,000円, 非会員 3,000円

日本ブラジル中央協会 会員総会 及び 会員交流懇親会

日 時: 2018年6月21日(木) 12:00~ (懇親会14:00~)

所: ラ・ロッシェル山王店

住 所:東京都千代田区永田町2丁目10-3 東急キャピトルタワー1F

※詳細はHPにてご案内します。



第3回 ブラジル料理教室 講師:平田マリ氏

時 : 2018年7月28日(土) 10:30~14:00

レンタルキッチンスペースPatia 西新橋店

住 所:東京都港区ン氏新橋1-11-9 丸万5号館2階

参加費 : 5,000円

─── 皆様のご入会を心よりお待ちしております ───

法人・個人 🔷 🌘

会員数 2018年4月現在 法人会員 122社 個人会員約330名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」 にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

- 協会会報「ブラジル特報」の無料配布 隔月発行, 年6回配布。
- 2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に、 参加できます (会員限定イベントへも参加いただけます)
- 3. 会員交流懇親会へ参加いただけます
- 4. ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

年会費

入会金は不要です

法人会員 1□ 20,000円 個人会員 1口 10,000円

《日本ブラジル中央協会公式HP》

http://www.nipo-brasil.org 日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。

ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



BrAsia (ブレイジア) 運営:株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階 TEL03-6263-0716 お問い合わせは E-mail:brasia@kanwajuku.com HP:http://brasia-j.com/





ブラジルへのご旅行・出張は 創業 1979 年のアルファインテルにお任せください。

アルファインテルは南米系旅行会社で唯一の国際航空運送協会 (IATA) 公認代理店です。 航空会社との直取引につき、料金、座席確保に自信があります。

主要取扱航空会社: ユナイテッド航空、デルタ航空、アメリカン航空、ルフトハンザドイツ航空、エールフランス航空、イベリア航空、ブリティッシュ・エアウェイズ、ターキッシュエアラインズ、エミレーツ航空、カタール航空、アエロメヒコ航空、ラタム航空、ニュージーランド航空、アルゼンチン航空、ゴル航空、コパ航空、アヴィアンカ航空

アルファインテルはブラジル総領事館(東京、浜松、名古屋)の登録業者です。 観光や短期商用はもちろん、永住権取得や技術支援などの長期ビザもお任せください。

ご旅行・ご出張の際の現地のホテル、ガイド、車輛の手配も実績ある弊社にお任せください。

株式会社アルファインテル

(本社) 東京都港区新橋3-8-6 大新ビル3階

,観光庁長官登録旅行業 第1835号 社団法人日本旅行業協会正会員/OTOA正会員

TEL: 03-5473-0541 FAX: 03-5473-0540

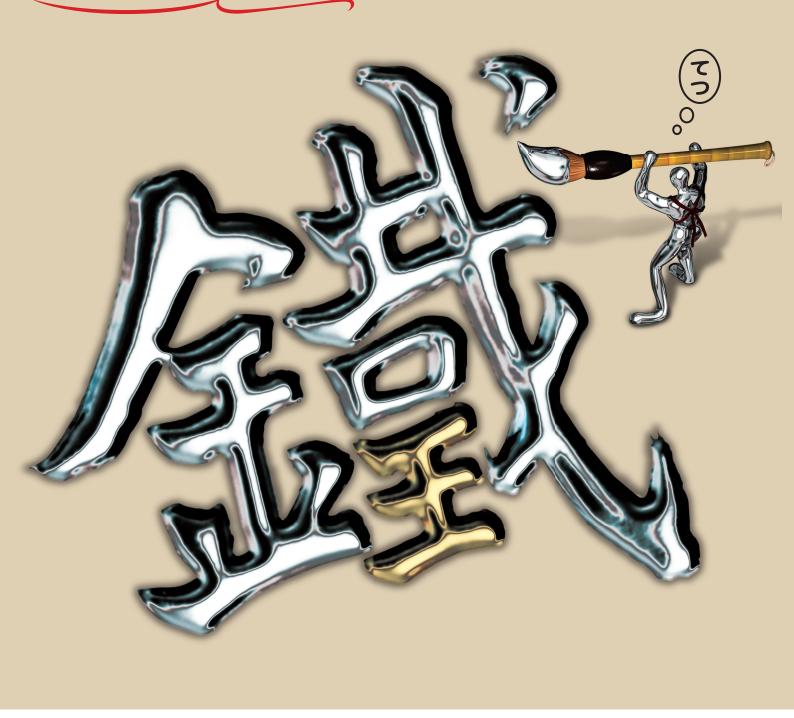
ALFAINTER

アルファインテル









鐵は金属の王なる哉

鉄は文明を開き、社会を支え、そして未来を築くためになくてはならない素材です。 新日鉄住金は世界最高の技術とものづくりの力で鉄の可能性を極限まで追求し、 "総合力世界No.1の鉄鋼メーカー"をめざしています。

だからこそ私たちは、「鐵」の文字の意味合いを「金属の王なる哉」と受けとめ、 総合力世界No.1への意志と誇りをこめて社名ロゴに使用しています。

